

幹本申5号「2025年3月ダイヤ改正について」に関する申し入れの交渉を行いました！ その2

第2項 S-Crew 本運用開始に伴い、不安なく乗務するため引き続きペーパーベースの運転士行路票を出力すること。

《組合》今回S-Crewが本使用になったが、今まで何が課題だったのか？

《会社》行路票の駅名表示がスクロールしていくと消えてしまうということで、各駅の時刻と駅名表示がリンクしない、重ならないので見づらいといったことを改修してきた。マーカーなど、細かな部分の機能も含めてである。

《組合》紙ベースの方が安心することから、引き続き紙ベースの運転士行路票を出力してほしい

《会社》紙ベースは残すが、運用変更や異常時対応においてデータ配信など、リアルタイムで配信がされるなどの機能も拡充していることからS-Crewの使用を進めている。紙ベースの出力はしない。

《組合》乗務員が紙ベースで出してもらいたいと依頼する事は各現場の対応になるのか？

《会社》S-Crewの方で本使用となっているので、区所の方で出す必要はないとお知らせしている。

《組合》ブラックアウトだとか、パスワードの期限切れなどの不安がある。

《会社》タブレットだけではなく、電子機器では突然の不具合発生リスクは当然ある。乗務中ブラックアウトした場合は指令、車掌に連絡し運転時刻を確認して運転を継続し、駅到着後タスク「切」という取り扱いになる。

《組合》それに伴う遅れはどうか？

《会社》システム上のエラーとなるので、まず報告してほしい。

《組合》タブレットが劣化しており、運転中にバッテリーが少なくなり不安がある。JR北海道の編成には延長コードが搭載されていない。そういった計画も必要になるのではないか？

《会社》タブレットの充電問題というのはS-Crewの導入の段階から懸念されていた。延長コードやモバイルバッテリー携行などの対策を実施している。JR北海道の編成については、今後搭載できるように検討している。

《組合》2項の申し入れ趣旨は不安なく乗務するということである。S-Crewも改修したということであるが様々な不安もある。使い慣れていないという面もあるが、今までにないエラーで新幹線を遅らせてしまうという不安がある。不安を解消するために、システムエラーでの遅れは気にしないでくださいとしっかりと伝えることが大切だ。

《会社》システムエラーによる遅延は、処置をおこない指令への報告や運転継続であるなど、それに伴う事象扱い、乗務員の不手際による事象扱いではないという考え方には変わりはないし、フォローもしていく。

《組合》輸送障害時に変更路になった場合、S-Crewに反映されるまで時間が掛かる。列車が来たので取りあえず出場する、何を見て乗務するのか？といった混乱が現場で発生している。タイムロスを短くしていただきたい。

《会社》輸送障害時には各区所含め行路変更が一斉に集中してしまう。できるかは別として今後の機能改修の中で活かしていけるよう、ご意見として受け止めさせていただく。

《組合》乗務員が不安に思っているのはタブレットやS-Crew故障時の取り扱いである。各職場でコミュニケーションを取りながら乗務員指導は継続していただき、働く側が働きやすい環境で不安なく乗務出来るのが一番である。その点について確認したい。

《会社》S-Crewの使用や乗務員指導は継続しておこなう。不具合があれば伝えていただきたい。

《組合》私たちが様々な声を聞きながら良いものにしたいと考えている。課題があれば再度議論させていただきたい。